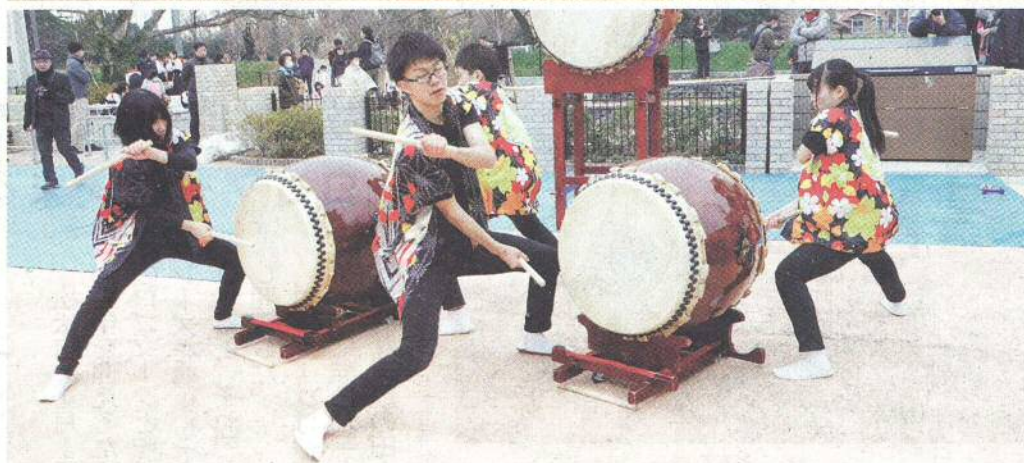


「まちのリビング」完成

越谷市
出津自治会

3者のアイデアで誕生

会館、公園が新・交流ゾーンに



越谷西高校書道部の「書道パフォーマンス」(上)と文教大学「出津龍」の和太鼓演奏(中)が、オープニングを盛り上げた(下はテープカットする関係者ら)



越谷市南荻島出津地区の大規模分譲住宅地内に、開発業者と地元住民、市当局の3者がアイデアを出し合った、新しい自治会館と公園が完成し、12日、現地で約300人が参加してオープニングイベントが行われた。

同市内の「中央グリーン開発」(中内景太良社長)が昨年8月、着工した住宅分譲地で、今年8月までに計64棟が完成する予定。同市は、50棟以上の住宅開発には「集会所の設置」を義務付けているため、地元の「出津自治会」(大熊久夫会長)は、新しく作られる施設(自治会館)や公園に対して、「住民意見を反映して」と同社に呼びかけ、地元の文教大生を含む住民と

業者、市の3者が「南荻島未来会議」を結成して、話し合ってきた。コンセプトは「まちのリビング」。住民が「ふらっと寄って、飲食もできる」緑側」。

完成した自治会館は木造2階建て、延べ床面積約130平方メートル。1、2階とも「フリースペース」がメイン。授乳室もあり、子育て中の親子が利用でき、「ワークショップ」や住民サークルの発表、生涯学習の場など幅広く使える。元荒川に面した公園や河川敷と一体化したコミュニティゾーンになる。集会所は同社が同市に寄付する。

オープニングイベントは、文教大のサークル「出津龍」の和太鼓演奏や、県立越谷西高校書道部の書道パフォーマンスでスタート。大熊自治会長(69)は「約1年間の3者協議で、皆さんの意見が集約され完成して感無量。広く活用していただきたい」とあいさつ。来賓の高橋努市長は、3者が一体となった貴重な取り組み。特に若い学生たちが参加しているところが素晴らしいと評価した。「中

央グリーン開発」の戒能隆洋・取締役事業部長は「ハートだけでなく、その先に続くコミュニケーションなど地域の人と寄り添って醸成していきたい」と述べた。